

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成30年4月12日(2018.4.12)

【公開番号】特開2018-23573(P2018-23573A)
 【公開日】平成30年2月15日(2018.2.15)
 【年通号数】公開・登録公報2018-006
 【出願番号】特願2016-157142(P2016-157142)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月5日(2018.3.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
 音出力チャンネルとして特定チャンネルを用いて、少なくとも第 1 音と第 2 音とを出力可能な音出力手段と、
 特別報知を実行可能な特別報知実行手段とを備え、
 前記音出力手段は、第 1 状態において前記第 1 音を出力可能である一方、第 2 状態において前記第 1 音を出力せず、
 前記特別報知実行手段は、前記第 2 状態において前記音出力手段に前記第 2 音を出力させる態様により前記特別報知を実行する一方、前記第 1 状態において前記音出力手段による前記第 2 音の出力を含まない態様により前記特別報知を実行し、
前記第 1 音として、前記有利状態に制御されることを予告する予告演出における演出音を出力する

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

(手段 1) 本発明による遊技機は、遊技を行い、遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当り遊技状態)に制御可能な遊技機であって、音出力チャンネル(例えば、A M M デコード 7 1 4 に設けられている 8 チャンネルの音声再生チャンネル)として特定チャンネル(例えば、チャンネル C h 0)を用いて、少なくとも第 1 音(例えば、予告音)と第 2 音(例えば、報知音)とを出力可能な音出力手段(例えば、スピーカ 2 7)と、特別報知(例えば、左打ち報知)を実行可能な特別報知実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 におけるステップ S 8 0 0 3 で左打ち報知の実行を決定したときに、ステップ S 8 0 0 4 で左打ち報知に応じたプロセステーブルを選択してステップ S 8 0 0 6, S 8 0 2 を実行する部分)とを備え、音出力手段は、第 1 状態(例えば、第 1 特別図柄の変動表示)において第 1 音を出力可能である一方、第 2 状態において第 1 音を出力せず

(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS6001でYのときステップS6002で予告音ありの予告演出Aを決定可能である一方、ステップS6001でNのときステップS6003で予告音なしの予告演出Bを決定可能である。図9参照。)、特別報知実行手段は、第2状態において音出力手段に第2音を出力させる態様により特別報知を実行する一方、第1状態において音出力手段による第2音の出力を含まない態様により特別報知を実行し(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS6501でNのときステップS6506で報知音ありの左打ち報知Bを決定する場合がある一方、ステップS6501でYのときステップS6504で報知音なしの左打ち報知Aを決定する場合がある。図9参照。)、前記第1音として、前記有利状態に制御されることを予告する予告演出における演出音(例えば、予告音)を出力する(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS6002で予告演出Aの実行を決定した場合には、図9(1-1)に示すように、予告音を出力する態様で予告演出Aを実行する)ことを特徴とする。そのような構成によれば、音出力に違和感が生じることを防止し、遊技に対する興味が低下することを防止することができる。さらに、第1音として予告演出における演出音を出力することにより、音出力による演出効果を向上させることができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】